

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的の把握に努めるとともに、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。

授業計画

春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、関連資料を選定し輪読する。
 秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。
 また、年2回、レポートの提出を求める。

第1回	国際会計の意義と研究領域	第16回	IFRSの要点解説(P/L項目)
第2回	国際会計制度の沿革1(IASC)	第17回	IFRSの要点解説(P/L項目)
第3回	国際会計制度の沿革2(IASB)	第18回	各自のテーマの報告と討論1
第4回	主要国の会計国際化1	第19回	各自のテーマの報告と討論2
第5回	主要国の会計国際化2	第20回	各自のテーマの報告と討論3
第6回	主要国の会計国際化3	第21回	各自のテーマの報告と討論4
第7回	主要国の会計国際化4	第22回	各自のテーマの報告と討論5
第8回	IFRSの基礎知識1	第23回	各自のテーマの報告と討論6
第9回	IFRSの基礎知識2	第24回	各自のテーマの報告と討論7
第10回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第25回	各自のテーマの報告と討論8
第11回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第26回	各自のテーマの報告と討論9
第12回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第27回	各自のテーマの報告と討論10
第13回	IFRSの要点解説(B/S項目)	第28回	論文作成の基礎1
第14回	IFRSの要点解説(P/L項目)	第29回	論文作成の基礎2
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

到達目標

- ・発表レジメの作成及び発表能力の向上
- ・卒業論文作成の準備作業及びテーマの決定

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

人生 100 年時代の到来の中、人々が健康で幸福に生きることができる社会にはどのような視点が重要であるかについて演習を通して検討することを目的とします。生まれてから老いるまで、人々には様々なニーズがあり、どのようなビジネスが求められているかについて、『健康』という切り口から各業界の理解を深められるよう演習を展開していきます。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力や、各文書作成能力を身に着け、客観的に物事をとらえ、批判的検討を行いながら、課題解決能力の向上を目指します。

授業計画

第 1 回	人生 100 年の時代	第 16 回	『健康』というキーワードとスポーツ業界② スポーツ観戦
第 2 回	幼児期・学童期におけるニーズと健康	第 17 回	『健康』というキーワードと不動産業界
第 3 回	青年期におけるニーズと健康	第 18 回	『健康』というキーワードと警備保障業界
第 4 回	成人期におけるニーズと健康	第 19 回	『健康』というキーワードと住宅メーカー
第 5 回	老年期におけるニーズと健康	第 20 回	『健康』というキーワードと教育
第 6 回	終末期におけるニーズと健康	第 21 回	『健康』というキーワードと商社
第 7 回	『健康』というキーワードと食品業界① 加工品	第 22 回	『健康』というキーワードとスーパー
第 8 回	『健康』というキーワードと食品業界② 飲料	第 23 回	『健康』というキーワードとコンビニエンスストア
第 9 回	『健康』というキーワードと食品業界③ 調味料	第 24 回	『健康』というキーワードとドラッグストア
第 10 回	『健康』というキーワードと食品業界④ 菓子類	第 25 回	『健康』というキーワードとホテル
第 11 回	『健康』というキーワードと音楽業界	第 26 回	『健康』というキーワードと飲食店
第 12 回	『健康』というキーワードとアニメ業界	第 27 回	『健康』というキーワードと介護施設
第 13 回	『健康』というキーワードと観光業界① 国内	第 28 回	『健康』というキーワードと病院
第 14 回	『健康』というキーワードと観光業界② 海外	第 29 回	健康ビジネスに求められる倫理性
第 15 回	『健康』というキーワードとスポーツ業界① スポーツ実践	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・人生 100 年時代に求められているビジネスについて考えることができる。
- ・健康に関連する要因を理解できる。
- ・健康ビジネスの重要性や倫理性について理解を深める。
- ・様々な健康ビジネスの種類について理解を深める。

履修上の注意

演習では、「医療事務技能検定試験講座」、「薬局事務講座」、「アロマセラピー検定 2 級講座」に関する内容にも触れます。これまでの演習において健康ビジネスについて学習してこなかった学生の皆さんも大歓迎です。

予習復習

専門用語が多いので、事前学習及び各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

教科書は特に使用しません。必要に応じて指示し、必要な資料を配布します。

授業概要

ゼミのテーマ、専門分野は、多国籍企業、世界企業が行う国際企業経営の学習と研究です。企業が外国において現地企業などとの競争に打ち勝つためには、製品の開発、生産、販売のいずれにおいても、本国とは異なる現地市場の特性を踏まえて活動することが必要とされています。かつて世界各国で優位に立った日本企業が、この10年ほど、中国、インドなどの新興国市場でしばしば敗退している理由の1つは、現地の消費者などが求める製品を適切に市場に投入できていないことにあると言われています。

このゼミでは、春期は、主として、日本の大企業によるアメリカ、中国、東南アジアなどでの活動を、さまざまな資料、論文、報告書などに基づいて学習・研究します。秋期は、4年次の卒業研究（卒業論文）の執筆に向けて、研究テーマの設定、資料の収集と読解、小論文（レポート）の作成、を行います。

授業計画

第1回	ゼミの進め方—企業活動の国際化	第16回	ゼミの進め方—論文の作成とは
第2回	日本企業の国際化の発展段階	第17回	研究テーマをどのように設定するか
第3回	日本的生産方式の特徴と優位性	第18回	資料・文献の収集方法（その1）
第4回	日本企業のアメリカ進出	第19回	資料・文献の収集方法（その2）
第5回	日本企業の東南アジア進出	第20回	各自の研究テーマの報告
第6回	日本企業の中国進出	第21回	研究の進行状況の報告（その1）
第7回	事例研究—自動車産業（その1）	第22回	研究の進行状況の報告（その2）
第8回	事例研究—自動車産業（その2）	第23回	研究の進行状況の報告（その3）
第9回	事例研究—家電産業（その1）	第24回	研究の進行状況の報告（その4）
第10回	事例研究—家電産業（その2）	第25回	研究の進行状況の報告（その5）
第11回	事例研究—アパレル産業	第26回	研究の進行状況の報告（その6）
第12回	事例研究—食品産業	第27回	研究テーマの再検討
第13回	事例研究—サービス業	第28回	あらためて論文とは何かを考える
第14回	研究テーマの設定	第29回	今後の研究作業について
第15回	春期のゼミのまとめ	第30回	演習全体のまとめ

到達目標

テーマを設定し、文献・資料を収集し、論文を作成するための基礎を修得します。研究課題を発見し、これを研究テーマに仕上げ、論文にする作業の基礎を身に着けることを目標とします。

履修上の注意

病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。

予習・復習

春期は、私が資料、論文等の文献を事前に配布しますので、必ず予習してきてください。報告を全員で分担して、討論します。ゼミ終了後は、一体何を学習したかを、自分で整理・復習してください。

なお、私が配布する資料等の準備状況によって、上記の授業計画の進行に変更が生ずることがあります。後に皆さんとあらためて相談します。

評価方法

春期は、資料・文献などの報告内容、秋期は研究テーマの設定、準備状況、報告内容によって評価します。成績の70%は、これらに基づいて評価し、残りの30%はゼミへの貢献度などを考慮します。

テキスト

現時点では考えていません。

授業概要

本ゼミは「財務会計の諸問題や企業の会計情報に関心のある学生が、卒業論文作成のための基礎知識を習得すること」を目的とする。財務会計の役割は、企業の経済活動を描写して、報告（情報提供）することである。3年次には、企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用して財務会計に限定せずに指導する。（ただし、ゼミ生が財務会計に特化した内容を希望する場合には、下記計画のうちの春期の内容を財務会計中心のものとする。）

また、就職活動を考慮するとグループワークの演習は欠かせないと考えている。そこで、履修者の人数にもよるが、秋期にはグループによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行うように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス・上場企業について	第16回	夏季休業期間中の課題の報告
第2回	上場企業の選択と下調べ	第17回	上記報告を踏まえた課題の討論
第3回	有価証券報告書の概要	第18回	各自の課題に関連する業界研究①
第4回	主要な経営指標①	第19回	各自の課題に関連する業界研究②
第5回	主要な経営指標②	第20回	第20回から第23回は
第6回	沿革	第21回	上記検討を踏まえた資料収集・報告
第7回	事業の内容	第22回	・検討の繰り返し。
第8回	企業集団など	第23回	チームの統一テーマ・章立ての決定
第9回	業績の概要①	第24回	第24回から第26回は
第10回	業績の概要②	第25回	チームレポート作成のための
第11回	対処すべき課題	第26回	資料収集・報告・討論の繰り返し
第12回	事業リスク	第27回	レポートの完成・提出
第13回	秋期のためのテキストの輪読①	第28回	プレゼンテーション準備
第14回	秋期のためのテキストの輪読②	第29回	プレゼンテーション
第15回	まとめと第16回に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス	第30回	卒論報告会への参加

上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知る。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの2年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のエクステンションセンター主催の各種講座、学外での活動や懇親会への参加などを含む総合的なものと考えているため、様々な履修指導を行う。

予習復習

- 予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
- ・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
- 復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
- ・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

- ・演習時における積極的な参加姿勢（レジュメ作成やプレゼンなど）といった平常点60%と、提出課題（または定期試験）40%を目安に評価する。

テキスト

春期はEDINETから出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり、送付される小冊子を配布予定である（なお、受講人数が少なければ別に1冊購入する（書籍未定））。

授業概要

各自の問題関心を重視し、これに応じた論文作成指導を行う。受講者は、研究テーマを決め継続的に報告し、討議する。最終的に卒業論文の基本的な内容の完成を目指す。自分が最も関心を持つテーマを見極め、これについて自分の意見をまとめられるように指導する。

授業計画

第 1 回	演習のあり方についての説明	第 16 回	論文の構成を立てる
第 2 回	各自の問題関心を明確にする	第 17 回	論文の構成を立てる
第 3 回	各自テーマを決める	第 18 回	論文の構成を立てる
第 4 回	資料を収集し報告する	第 19 回	論文を作成し順を追って報告
第 5 回	資料を収集し報告する	第 20 回	論文を作成し順を追って報告
第 6 回	資料を収集し報告する	第 21 回	論文を作成し順を追って報告
第 7 回	資料を収集し報告する	第 22 回	論文を作成し順を追って報告
第 8 回	資料を収集し報告する	第 23 回	論文を作成し順を追って報告
第 9 回	論文に必要な理論の学習	第 24 回	論文を作成し順を追って報告
第 10 回	論文に必要な理論の学習	第 25 回	論文を作成し順を追って報告
第 11 回	論文に必要な理論の学習	第 26 回	論文を作成し順を追って報告
第 12 回	論文に必要な理論の学習	第 27 回	卒業論文の草案の完成
第 13 回	資料を収集し報告する	第 28 回	卒業論文の草案の完成
第 14 回	資料を収集し報告する	第 29 回	卒業論文の草案の完成
第 15 回	資料を収集し報告する	第 30 回	卒業論文の草案の完成

到達目標

卒業論文のテーマを確定し、資料を収集し、必要な理論を学習し、論文の草案を作成する。

履修上の注意

論文の報告を欠かさないこと。

予習・復習

各自ネット上からの資料収集を行うこと

評価方法

授業中の報告と発言による。無断欠席は認めない。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

中国経済の歴史と現状に関する基本知識を習得する演習である。本を輪読し、議論する形式をとる。80年代より高度成長を成し遂げ、経済大国になった中国だが、その経済発展は今後持続可能なのか、資源や環境問題、所得格差問題、少子高齢化問題などをどのように克服していくのか、などをテーマに、いくつかのトピックスを通して掘り下げた議論を行っていききたい。

授業計画

第1回	オリエンテーション(演習内容、進め方、評価方法などの説明)	第16回	オリエンテーション(春期の振り返りと秋期の目標設定)
第2回	グローバル経済の中の中国経済①	第17回	中国の人口・労働力・雇用問題①
第3回	グローバル経済の中の中国経済②	第18回	中国の人口・労働力・雇用問題②
第4回	中国の改革開放政策の変遷①実験主義、漸進主義的手法	第19回	中国の「四農」(農業・農村・農民・農民工)問題
第5回	中国の改革開放政策の変遷②鄧小平の「先富論」	第20回	中国の戸籍制度① 戸籍制度の成立過程
第6回	「社会主義市場経済」とは何か① 「計画」から「市場」へ	第21回	中国の戸籍制度② 戸籍制度改革と都市化
第7回	「社会主義市場経済」とは何か② 株式制、証券取引所の導入	第22回	中国の戸籍制度③ 戸籍制度改革と「二重構造」の解消
第8回	「社会主義市場経済」とは何か③国有大企業の地位	第23回	環境問題①現状と対策
第9回	外国投資の役割① 資本・技術・経営管理手法の導入	第24回	環境問題②経済大国としての責任
第10回	外国投資の役割② 国際収支、雇用への貢献	第25回	エネルギー不足問題と新エネルギー開発の動き
第11回	地域開発と地域格差①	第26回	中国の「走出去」政策
第12回	地域開発と地域格差②	第27回	日中貿易関係
第13回	格差問題の現状と対策	第28回	日本の対中直接投資① 中国事業の重要性
第14回	協調的な発展に向けて	第29回	日本の対中直接投資② 中国事業のリスク
第15回	春期の内容のまとめ	第30回	秋期の内容のまとめ

到達目標

- 1、要領よくレジュメを作成できるようになる。
- 2、適切なコメントや疑問点を提出できるようになる。
- 3、中国経済に関する基礎知識を習得し、日本との異同点を理解できるようになる。

履修上の注意

- 1、報告内容に関連する補充資料の添付が望ましい。
- 2、報告内容に限らず、中国経済に関する幅広い議論を期待したい。

予習・復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読すること。

評価方法

授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況及び報告内容、授業態度、期末テストを総合して評価する。積極的に議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

テキスト

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年：

授業概要

この演習では、会社の仕組みやあるべき姿そしてコーポレート・ガバナンスの考え方について学びます。卒業後に会社勤めを考えている学生には、是非これらの問題に興味を持って学んでもらいたいと思います。基本的には、ゼミ生全員が毎回教科書の指定された箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	この演習で学ぶこと	第 16 回	所有と経営の分離
第 2 回	日本の会社の現況	第 17 回	株主によるモニタリング
第 3 回	バブルと金融革命	第 18 回	経営者へのインセンティブ付与
第 4 回	ヒトとモノ	第 19 回	M&A
第 5 回	法人の存在理由	第 20 回	系列とメインバンク
第 6 回	株主の有限責任制	第 21 回	日本の金融危機
第 7 回	コーポレート・ガバナンスとは	第 22 回	銀行のガバナンス
第 8 回	コーポレート・ガバナンスの実際	第 23 回	ファミリービジネス
第 9 回	法人論争と日本型資本主義	第 24 回	二つのコード
第 10 回	日本型資本主義とサラリーマン	第 25 回	実態面の変化
第 11 回	日本型資本主義の起源	第 26 回	企業の不祥事について
第 12 回	資本主義とは何か	第 27 回	ステークホルダーとは何か
第 13 回	21 世紀における会社組織	第 28 回	地球環境問題
第 14 回	これからの会社の在り方	第 29 回	ESG と SDGs
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	課題レポートの提出

到達目標

会社の仕組みやあるべき姿そしてコーポレート・ガバナンスの考え方を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

教科書の指定された箇所を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

主に、次の 2 冊を教科書として使用する予定です。

- ・岩井克人『会社はこれからどうなるのか』平凡社ライブラリー 2009 年 (ISBN 978-4-582-76677-6)
- ・花崎正晴『コーポレート・ガバナンス』岩波新書 2014 年 (ISBN 978-4-00-431513-1)

授業概要

本演習では、近代経済学的手法を用いて経済を分析し、有効な政策を提言することができるようにすることを主目的とする。近代経済学的手法とは、統計的な方法を用いた計量経済学的手法のことである。例えば、経済活動水準が低いときには減税を実施すべきなのか、公共投資を実施すべきなのか。それを的確に判定するためには、現在の経済状況をモデル化する必要がある。

そのため、経済学の理論を習得するとともに、現実のデータを用いて経済分析をするための統計学の方法も駆使できるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	統計モデル解析の方法 1
第 2 回	EXCELの復習 1	第 18 回	統計モデル解析の方法 2
第 3 回	EXCELの復習 2	第 19 回	統計モデル解析の方法 3
第 4 回	EXCELの復習 3	第 20 回	統計モデル解析の方法 4
第 5 回	EXCELの復習 4	第 21 回	統計モデル解析の方法 5
第 6 回	EXCELの復習 5	第 22 回	統計パラメーターの考察 1
第 7 回	アドインソフトの使い方 1	第 23 回	統計パラメーターの考察 2
第 8 回	アドインソフトの使い方 2	第 24 回	統計パラメーターの考察 3
第 9 回	アドインソフトの使い方 3	第 25 回	統計パラメーターの考察 4
第 10 回	アドインソフトの使い方 4	第 26 回	統計パラメーターの考察 5
第 11 回	アドインソフトの使い方 5	第 27 回	モデル分析の応用 1
第 12 回	必要なデータの収集方法 1	第 28 回	モデル分析の応用 2
第 13 回	必要なデータの収集方法 2	第 29 回	モデル分析の応用 3
第 14 回	必要なデータの収集方法 3	第 30 回	モデル分析の応用 4
第 15 回	必要なデータの収集方法 4	第 31 回	まとめ
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

到達目標

経営や経済のデータを分析するために、的確な統計モデルを構築し、計算結果を解釈することができるようになることが、本講義の到達目標である。幸い、EXCELには多様な統計処理ソフトが組み込まれているので、それらを有効に活用して適切な統計処理ができるようになってほしい。

履修上の注意

パソコンの実習が中心となるので、パソコンの操作（表計算とワープロ）は身につけておいてほしい。ただし、それらは必要条件ではないので、演習で指導をする。しかしながら、そうした受講生は人一倍努力してもらいたい。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

課題の提出状況などを見て判断する。

テキスト

今のところは特定のテキストを指定することは考えていないが、演習の進行状況に応じてこちらから指定することがある。

授業概要

「経営戦略の理論と実践」をテーマとする経営学領域の演習である。

経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、良い戦略と悪い戦略の違いについて書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。方法としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

第1回	概要	第16回	概要
第2回	良い戦略とは?	第17回	戦略の焦点
第3回	良い戦略とは?	第18回	戦略の焦点
第4回	悪い戦略とは?	第19回	戦略のダイナミクス
第5回	悪い戦略とは?	第20回	戦略のダイナミクス
第6回	強みの発見	第21回	戦略と慣性
第7回	強みの発見	第22回	戦略と慣性
第8回	戦略目標	第23回	戦略と仮説
第9回	戦略目標	第24回	戦略と仮説
第10回	戦略設計	第25回	戦略思考
第11回	戦略設計	第26回	戦略思考
第12回	プレゼンテーション	第27回	プレゼンテーション
第13回	プレゼンテーション	第28回	プレゼンテーション
第14回	プレゼンテーション	第29回	プレゼンテーション
第15回	総括	第30回	総括

到達目標

- 経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につける
- 理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につける。

履修上の注意

- 指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- 遅刻と欠席には厳しく対処する。

予習復習

- 発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- 復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
- この評価には内容・形式・発言などを含む。

テキスト

授業内で指定する

授業概要

本演習では環境会計・経営に関係した卒業論文作成の準備を行います。環境会計は企業の環境保全活動を費用対効果で定量的に測定し利害関係者へ伝達する仕組みです。春期は環境関連の基本書を輪読していきます。特に地球環境問題と持続可能な社会の形成に関することを学びます。秋期は環境会計の概要を学びその後卒業論文の作成準備を行います。実際の企業の「環境報告書」などを参考に卒業論文のテーマ選定をします。

授業計画

第 1 回	持続可能な企業社会の概要	第 16 回	環境会計の存在意義とは何か？
第 2 回	①地球環境問題と持続可能社会とは	第 17 回	① 環境省の環境会計ガイドライン
第 3 回	② 人口、食糧、資源	第 18 回	② 環境会計のアカウンタビリティ
第 4 回	③ 貧困、格差、経済	第 19 回	③ 環境会計と ESG 投資
第 5 回	④ 温暖化と低炭素社会	第 20 回	④ 環境会計と利害関係者
第 6 回	⑤ エネルギーと環境	第 21 回	⑤ 環境会計と SDGs17 目標
第 7 回	⑥ 生物多様性の意味	第 22 回	⑥ 統合報告書などの読み方
第 8 回	⑦ 循環型社会、廃棄物	第 23 回	⑦ 持続可能な会計情報の開示
第 9 回	⑧ 震災関連・放射性物質	第 24 回	⑧ 卒業論文のテーマについて
第 10 回	⑨ 環境保全の取り組み	第 25 回	⑨ 卒論の書き方①背景と問題提起
第 11 回	⑩ 環境影響評価	第 26 回	⑩ 卒論の書き方②先行研究の意味
第 12 回	⑪ 企業の社会的責任	第 27 回	⑪ 卒論の書き方③資料収集
第 13 回	⑫ 環境マネジメント	第 28 回	⑫ 卒論のテーマ報告会①概要説明
第 14 回	⑬ ISO14001：2015 版	第 29 回	⑬ 卒論のテーマ報告会②概要説明
第 15 回	課題レポート	第 30 回	⑭ 卒論のテーマ報告会③概要説明
春期	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

- ・卒業論文作成の準備ができること。

履修上の注意

- ・毎週、テキストに沿った**レシメを作成**し報告をしてもらいます。
- ・正課授業科目「**環境会計論**」は必ず受講して下さい。

予習復習

- ・各人、テキストは事前に精読しておくこと。

評価方法

- ・授業中の発言や報告内容（50%）、課題レポート（50%）等で総合的に評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

東京商工会議所『改訂 7 版 環境社会検定試験®（eco検定） 公式テキスト』
日本能率協会マネジメントセンター出版

東京商工会議所『eco検定(環境社会検定試験)®』公式問題集』2020 年版
日本能率協会マネジメントセンター出版

（参考図書・資料）

- ①東京商工会議所（2020）『環境社会検定試験 ECO 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター
- ②環境省（2005）『環境会計ガイドライン 2005 年版』総合環境政策局経済課
- ③川崎剛（2018）『社会科学系のための優秀論文作成術』勁草書房
- ④酒井聡樹（2018）『これから学会発表をする若者のために—ポスターと口頭のプレゼン技術—第 2 版』共立出版
- ⑤各社の最新版『CSR 報告書』『統合報告書』などを使用する予定。